

健康

元気のヒント

◁88▷



加藤 剛志

徳島大学
産婦人科分野助教

子宮内膜症とは、子宮の中にある「子宮内膜」という組織に似たものが、子宮以外の主におなかの中に発生し、さまざまな症状を起こす病気です。卵巣にできると、古い血液のようなチョコレート色の液体を含む嚢胞を形成します。子宮の周辺を中心とした腹膜にできると、血豆のような小さな病変ができます。子宮の筋肉内に発生することもあります。

子宮内膜症

子宮内膜症は、病変の周囲に炎症を起こすことで、月経痛の原因となるといわれています。病状が進行すると、子宮や卵巣・卵管、腸などに癒着（くっつき）を引き起こします。これらの炎症と癒着は不妊症の原因になります。さらに卵巣に発生した嚢胞は、その機能を低下させる危険をはらんでいます。

月経痛早めの相談を

ホルモン療法で進行抑制

閉経までの癒着が激しいことで、注目すべきは月経痛が多く、また卵巣に極力ダメージを与えない配慮も必要で、手術には慎重な操作が求められます。

一方、手術にも問題点があります。それは卵巣の嚢胞を摘出する際に卵巣機能にダメージを与えてしまうこと、子宮内膜症は再発しやすいこと、二つです。

手術で嚢胞を摘出して、再発する可能性が高いといわれています。再発して何回も手術をしていくと、卵巣機能に深刻な影響を引き起こす危険性があります。そこで、手術はなるべく一回だけで済むように、薬物療法をうまく組み合わせ、閉経までの長い期間を上手に過ごす工夫が大切です。

薬物療法はホルモン療法が主体です。月経痛を劇的に改善させるほか、子宮内膜症の悪化や手術後の再発をある程度防ぐことが可能です。使用するホルモン剤も進歩しており、副作用も少なく長期服用しやすくなっています。

子宮内膜症は、できるだけ早期に対処を始めることが重要です。そこ

で、注目すべきは月経痛が多く、また卵巣に極力ダメージを与えない配慮も必要で、手術には慎重な操作が求められます。

一方、手術にも問題点があります。それは卵巣の嚢胞を摘出する際に卵巣機能にダメージを与えてしまうこと、子宮内膜症は再発しやすいこと、二つです。

手術で嚢胞を摘出して、再発する可能性が高いといわれています。再発して何回も手術をしていくと、卵巣機能に深刻な影響を引き起こす危険性があります。そこで、手術はなるべく一回だけで済むように、薬物療法をうまく組み合わせ、閉経までの長い期間を上手に過ごす工夫が大切です。

薬物療法はホルモン療法が主体です。月経痛を劇的に改善させるほか、子宮内膜症の悪化や手術後の再発をある程度防ぐことが可能です。使用するホルモン剤も進歩しており、副作用も少なく長期服用しやすくなっています。

子宮内膜症は、できるだけ早期に対処を始めることが重要です。そこ

(第2土曜日掲載)